

「設立の原点に立ち返って」 座談会（その1）

コスモも、平成 21 年 9 月に前身の研究会がスタートして 9 年が、また平成 24 年 10 月の社団設立から 6 年が経過することになります。この間、活動の幅も広がり、また多くの会員に加入いただき、現在は 60 名を超えるまでに成長いたしました。今回、座談会として、コスモのこれまでとこれからについて、歴代代表理事の方々にお話を伺いました。座談会の様子を 3 回に分けて掲載します。

萩原) 本日はお集りいただきありがとうございます。早速ですが、コスモの前身の研究会を立ち上げてから丁度 9 年経ちました。また、社団に模様替えしてから、現在 7 期目ということになります。少し早いような気もしますが原点を振り返り、今後の方向性を考える機会にしましょうということで今回の座談会を企画しました。前身である研究会の立上げについてですが、桑原さんから振り返っていただきたいと思います。

桑原) 自主的な勉強会ということで、平成 21 年 7 月、社会保険労務士会練馬支部の中で当時の支部長からお声かけがあり、始まったのではないかと思います。



代表理事・会長 設楽 徹

設楽) それ以前に、まず練馬支部の中で年金の勉強会の話があって、そこから桑原さんの娘さんの話があり、障害年金について何かできないかということからスタートしたように記憶しています。

そのころは、他支部を含めて障害年金にしぼった勉強会というのがほとんどなく、そういうところから障害年金をきちんと勉強したいということになったように思います。

桑原) 私の娘が精神障害を患っているということがあり、他でも精神障害で苦しんでいる方の姿を見聞きすることが多く、年金の専門家である社労士として何かできないかと以前から思っていました。そのような事情で、所属している練馬支部の皆さんにお声をかけさせていただいたということがありました。このような経緯の後、私が平成 21 年 7 月にスタートした練馬支部の自主研究会の代表を務めることになりました。

萩原) 当時のメンバーは何人位いらっやっただでしょうか？

設楽) 研究会の第1回議事録がありますが、そこではメンバーとして21名出ています。現在のコスモのメンバーも多く名前があり、今に続いているのは心強い限りですね。

萩原) 当時の社会状況を思い起こすとメンタルヘルスが社会問題になったところで、うつ病等で会社を休職・退職する方も多くなってきており、社会全体、そして会社としてどのように対処していこうかという問題意識があったように思います。



歴代表：左から松尾前会長、桑原元会長

松尾) 同じ時期だと思いますが、平成18年に障害者自立支援法が成立し、それを元にした行政サイドの障がい者の方に対する自立支援プログラムができたということも背景にあります。この関連で、練馬区社会福祉協議会からご依頼があり練馬区役所の地下ホールで、障害年金に関するセミナーを練馬区および練馬区社会福祉協議会の共催で、私と河内副代表とが講師を務めました。参加者が2日間で119名と盛況だったこと、参加者の方から熱心な質問が次々と出され、社会的な関心の高まりを実感しました。



H21.11 障害年金セミナーの様子

萩原) 平成21年9月の研究会立ち上げから、あまり時間をおかないで年金相談会を開催するようになりましたが、どのようなきっかけだったのでしょうか？

桑原) 年金の専門家である社労士として何かできないかというメンバーの声があって、まずは相談会をやってみようという開催したものです。最初から毎月1回、定期的で開催するということを決めて、この方針にそって頑張ったように記憶しています。最初は、いつ頃でしたか？

萩原) 手許に第2回無料年金相談会のチラシがありますが、平成23年2月になっています。第1回は平成23年1月ということになりますね。

松尾) 最初は相談会の会場を探すのが大変で、ジブシーのようにあちらこちら問い合わせを行い、毎月開催場所が変わるといって、そんな大変な時代でしたね。今月は中村橋、翌月は高野台駅に集合というように月替わりでした。皆さん熱心に参加いただいて、苦労もありましたが相談会の後のビールを飲みながらの反省会が楽しみでした。

設楽) そうこうするうちに平成24年4月から練馬区障害者地域生活支援センターのきらら・ういんぐを会場としてお借りできることになった。これは大きかったですね。きらら・ういんぐは、それまでも精神障がい者の方向けの勉強会や支援者を対象にした講演会でつながりができており、そのような関係から相談会の会場としてお借りできないかお願いして実現したという経緯があります。このような中で、練馬区精神障がい者家族会とのご縁もでき、現在につながっています。

松尾) そこから毎月きららとういんぐで交互に相談会が開催できるようになって、以前のように会場確保に苦勞することがなくなり、本当に大きな進歩でしたね。また、きらら・ういんぐだけでなく自前の相談会の会場を確保したいということで、第3の会場として練馬産業連合会の会館でも開催するようになりました。現在のココネリ相談会の前身ですね。

萩原) きらら・ういんぐの相談会が本年9月で93回、産業連合会・区民産業プラザ(ココネリ)相談会が58回になっています。自前の相談会開催まで、約3年経っていたということですね。相談会が、コスモの初期の活動の柱になっていった経緯がよく分かりました。(次号へ続く)

「設立の原点に立ち返って」 座談会（その2）

コスモも、平成21年9月に前身の研究会がスタートして9年が、また平成24年10月の社団設立から6年が経過することになります。今回、座談会として、コスモのこれまでとこれからのについて、歴代代表理事の方々にお話を伺いました。今回は、その2回目です。

萩原）前回のまとめとして、東京都社会保険労務士会 練馬支部のメンバーを中心に年金の専門家である社会保険労務士として障がい者の方たちへのサポート、特に障害年金の受給に向けた支援をしていこうということでまとめ、年金相談会を毎月開催してきたということまででした。

その後、平成24年10月の一般社団法人 年金トータルサポート・コスモの設立になってくるわけですが、この辺の経緯はどうだったのでしょうか？



設立総会 H24.9.24

桑原）年金相談会が2年経過し、相談者も増えてきており定着しつつあったという背景がありました。そうした中で、相談者に対する適切な対応やセンシティブな部分に触れることが多いという個人情報保護の問題、そして継続性というような諸々の課題に対処するためには自主研究会という組織では限界があると考えようになったことがありました。法人化することで責任ある対応を担保する、組織として事にあたるという部分を明確にするということです。

萩原）自主研時代の議事録をみると平成23年8月頃から将来の活動方針が議題になっており、最初はNPO法人を考えていたことが記録されています。また、平成22年9月開催の議事録には、「精神に障がいを持つ方々を支えるグループ」とありますが、次の10月開催の議事録では「年金トータルサポート・コスモ」という名称に変更されています。まずこの辺の事情について伺いたいと思います。

設楽）初めは花の名前をつけたいと思って最初にコスモスが出てきて、コスモスより宇宙の広がりを持つコスモの方が良いよということで『コスモ』にしようという話になったかと。

松尾) 石油会社の名前にもあるよというような意見も出たが、花のようなやさしさで包もうという部分と宇宙のような広がりを持たそうという部分の両方をコスモという名前でイメージしようということになったものですね。

萩原) 今振り返ると活動の基本となる方針・姿勢がメンバーの中にしっかりと入っていたので、その思いがネーミングにきちんと出てきているような気がしますね。

桑原) コスモのマークの四葉のクローバーも良いですね。これは齋藤さんの発案でしたね。

萩原) 記録を見てみると四葉のクローバーが幸せをイメージさせてコスモにふさわしいということがあり、そして精神障がい者ご本人、そのご家族、医療従事者、ケースワーカーなどの福祉関係者という関連する方々を4つの葉で象徴しているとあります。



年金相談会参加メンバー

また、一つひとつの葉は「ハート＝心、幸福、温かさ」にも通じるともあります。このような意味づけを踏まえて正式にコスモのマークとなったものです。

設楽) ネーミングについては、途中から生涯をつけようということになりました。これは、コスモの活動の対象として生涯生活設計、ライフプランの意味も入れたいという飛田さんの提案ですね。当社団を一言で表現すると年金などの専門家である社会保険労務士として、障がいをお持ちの方々を生涯にわたってサポートさせていただきますよということですね。

松尾) その関連で、家族会とのつながりを通して成年後見についての話をいただいたというのもあります。家族会さんとは社団設立前から定期的に勉強会を開催していて、そのようなご縁で障害者フェスティバルへも参加するなどしていました。このような地道な活動を通じて、同じ目線での活動ができていたという部分もありましたね。コスモがこれからも活動を積み重ね、組織が大きくなったとしても、障がい者などの困っている方々に寄り添った活動、サポートをしていきたいという姿勢はメンバー一人ひとりがいつまでも大切にしていきたいものですね。

萩原) そこで最初の社団法人設立の話に戻りたいと思います。社団法人の設立は平成24年10月1日でしたが、なぜ社団法人だったのでしょうか？

桑原) 先ほどの話にもあったように責任をもった支援をするための組織化という部分がまずありました。その上で、NPO法人にするか社団法人にするかということになった時に、NPOは会員を限定できないということが分かった。我々は、年金相談などで非常に機微にわたる個人情報扱うという性格から個人情報の保護というものが厳格に要求されてくる。NPOではそここのところが十分に担保できないのではないかとというのが決定的な部分でしたね。

萩原) 事務局として社団設立に関連した事務作業を担当しましたが、定款の事業内容を検討するときに、現在の主な事業内容のほとんどがすでに自主研究会時代の会則に入っていたというのも印象に残っています。細部にわたって吟味した定款を練馬駅前の公証役場で認証を受けたときは、やったーという達成感がありました。定款には設立時社員を明記する部分があるのですが、改めて数えてみると18名の方々が登場していますね。そうしてよいよ平成24年9月24日、石神井公園区民交流センター会議室において設立総会が開催され、正式に一般社団法人年金トータルサポート・コスモの発足ということになりました。(次号へ続く)



障害者フェスティバルの様子

「設立の原点に立ち返って」 座談会（その3）

コスモも、平成21年（2009年）9月に前身の研究会がスタートして9年が、また平成24年（2012年）10月の社団設立から6年余りが経過することになります。今回、座談会として、コスモのこれまでとこれからについて、歴代代表理事の方々にお話を伺いました。今回は、その3回目（最終回）です。

萩原）前回自主研究会から社団法人の設立というところまで伺いましたが、法人設立後の活動はいかがでしたでしょうか？

設楽）コスモの活動の柱として障害年金を中心とした年金相談会というものがあり、この定着を目指していく中で相談担当者をどう育成していくか、増やしていくかということがその当時の最大の課題でしたね。



年金ゼミナールプロコースの様子

松尾）この流れで、年金相談実務者向けの研修をやろうという話になったと記憶しています。

萩原）手許に年金ゼミナールの募集案内ちらしがありますが、第2回案内が平成25年になっております。年金ゼミナールという名称にしたのは何か理由がありましたか？

松尾）一般的な講習会のように単に受講するだけのものではなく、少人数制で、かつ講師と受講生とがいつでも疑問点をやり取りできるような双方向のものを目指していました。年金相談者としての実務スキルを身につけていただくという目的からも、より実践的な内容にしようという考えが当初からあったと思います。

萩原）年金ゼミナールは、その翌年からプロコースも開催されていますが、この辺りの経緯を教えてくださいいただけますか？

設楽) 毎年秋に実施している講座は、年金相談者としての基本を身につけるという目的で実施していますが、それはあくまでも基本的なスキルを身につけていただくということで、実際の相談の現場ではそれ以上の実務的なスキルが求められます。その意味でさらに進んだ講座内容という意味を持たせてのプロコースの開講に至ったものです。

松尾) プロコースの最大の特徴は、障害年金の手続きに即した実践的な内容が学べるということです。また障害年金請求手続きの具体的な事例にそって、留意点や実務上押さえておくべきポイントをしっかり丁寧に解説するというスタイルにしています。この点からも年金相談を受ける者にとって、その日からすぐに役立つ生きた知識・スキルを学ぶことができるという点でコスモ独自のものになっていると思っています。

桑原) 基本コースで障害年金相談に関するベースになる知識を体系的に学んでいただき、プロコースで様々な事例を中心にした実践的なスキルを追加し、そのうえで毎月開催されている年金相談会で経験を積んでいただくという流れが軌道に乗ってきているように思えますね。

萩原) 年金ゼミナールの特徴として、篠原副代表がまとめられた「障害年金裁定請求実務の基礎」を活用した講義内容になっているという部分もあるかと思いますが、この辺りはどうですか？

松尾) 現在年金ゼミナールで使用されているテキストですね。これは篠原副代表が実際の障害年金相談の現場で、手許において随時参照したい法令や関連する通達、請求手続きの流れの中で実務上押さえておくべき重要なポイント、さらには請求手続きで使用する書式・記入上の注意点を体系的かつ網羅的に編纂されたもので、まさに年金相談担当者必携の内容になっています。

萩原) 年金ゼミナールは、基本コースが7回、プロコースが6回と回を重ね受講者も増えてきており定着しているように思いますが、今後どのようなことを考えていますか？

設楽) 研修会としては年金トータルサポート・コスモというように年金全般を対象にしているということもあって、以前開催した共済年金一元化や10年年金などの法改正などを踏まえた新しいものも開講したいと思っています。また、今後はコスモにおける研修で講師経験を積んだ会員を外部研修の講師として派遣したいとも考えているところです。

萩原) そろそろ最後のまとめにしたいと思いますが、今後のコスモをどのように方向づけていきたいとお考えでしょうか？

松尾) 年金ゼミナールや年金相談会など現在の活動は東京中心になっていますが、これを他地域にも広げられないかという考えを以前から持っています。以前東京で会員になっていた方が関西地区に引っ越され、現在も会員として継続されています。こちらと違って障害年金に関する研修の機会が少ないという話を聞いており、何とか関西地区で年金ゼミナールをコンパクトにしたものを開講できないかと考え準備しているところです。

設楽) 平成28年秋には、コスモ会員が執筆した書籍を発行しました。また、現在教材としての活用を想定したハンドブックの編纂が進んでいてもう少しで発行の運びです。新しい動きとしては、平成27年8月、コスモに成年後見部会が発足し、関連する方々からのご要望もあり今後本格的に法人後見を主体に活動をしていく予定です。

桑原) そういえば無料年金相談会も平成31年4月7日開催分で100回の節目を迎えることになります。これからも継続していきたいですね。

萩原) 本日はどうもありがとうございました。



第100回無料年金相談会(ういんぐ)